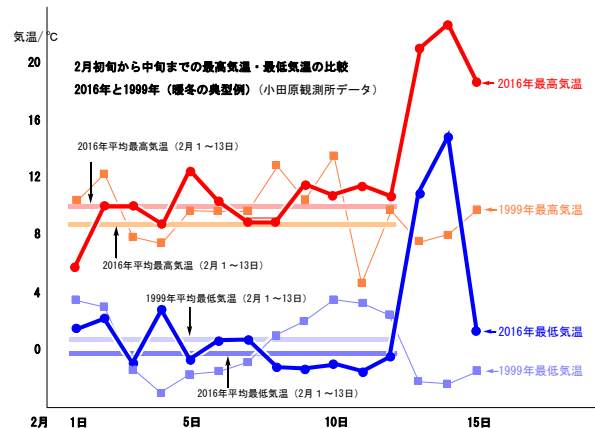


<やはり暖冬?>暖冬と云われていますが、記録的寒波が襲い、昼夜だけでなく日による気温の変化が激しいと過ごし易い冬とは思えません。気象庁によると12月～2月の平均気温が平年に比べて高い冬(関東では0.5℃以上)が暖冬です。日々の話ではありません。そこで典型的な暖冬と云われた1999年の今時分と今冬の最高・最低気温を調べてみました。右のグラフはその一部(2月1～15日、小田原観測所データ)をまとめたものです。この13～15日は異常に暖かい日でしたから比較から外しましたが、それでも今冬の過ごし難さが垣間見えます。この2週間ほどの平均は99年のこの時期より最高気温が高く、最低気温が逆に低くなっています。



<春告草(はるつげぐさ)>無粋なグラフでなく植物は暖冬を素直に感じ取り例年より早く春の足音を告げています。まずは“春告草”の別名を持つ梅、「梅一輪一輪ほどのあたたかさ(服部嵐雪)」どころかあつという間に咲き出しました。



<ウメ：南高梅>



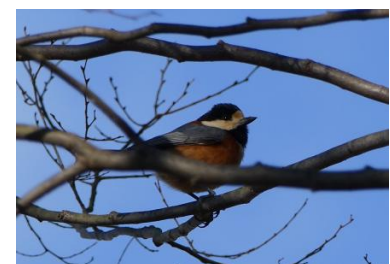
<オオイヌノフグリ>

ところで花見といえば桜ですが万葉の昔は梅が主役だったようですね。桜と違い花吹雪の中で宴とはまいませんが、風のない晴れの日梅花と香りはまさに「梅が香にのっと日の出る山路かな(芭蕉)」です。もうひとつ、日だまりで小さな青い花を咲かせる“オオイヌノフグリ”も春告草と云えるでしょう。



<それでも冬>訪れが遅いと気にな

っていた冬鳥たちがよく見られるようになりました。まず頭の天辺の羽毛を立てている“カシラダカ”です。群れで生活しているようです。次は“アオジ”、“カシラダカ”と同じく地面に降りて草の実を啄んでいました。また、建物近くのケヤキの梢から枝を叩く音が聞こえてきます。見上げると“ヤマガラ”です(右写真)。



<ヤマガラ>

(文と写真：松本正勝)

ズメは風の当たらない所で日光浴という姿です。